

株式会社島津製作所  
(東証プライム市場：証券コード7701)

# 2026年3月期 第3四半期決算説明会

常務執行役員 前田愛明

2026年2月5日

※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

## 第3四半期 増収増益

### 売上高・営業利益とも前年を上回って増加

- ・【売上高】 **1,424億円 (前年同期比+ 7%)** : 6期連続で3Q過去最高を更新
- ・【営業利益】 **187億円 (前年同期比+11%)** : 2期ぶりに3Q過去最高を更新

## セグメント別

- ・計測 : 増収減益 / 売上高は3Q過去最高を更新 費用増により減益
- ・医用 : 増収増益 / 売上高は3Q過去最高を更新 利益22倍
- ・産業 : 増収増益 / 売上高・営業利益とも3Q過去最高を更新
- ・航空 : 増収増益 / 売上高・営業利益とも3Q過去最高を更新

## 通期目標

**為替円安を反映し売上高を上方修正するものの、営業利益はM&A費用の増加および研究開発費の増加等を見込んで据え置く**

- 【売上高】 **5,550億円 (前期比 +3.0%) (11月公表値+100億円)**
- 【営業利益】 **720億円 (前期比 +0.4%) (11月公表値を据え置く)**

まず、決算業績のハイライトです。2ページをご覧ください。

第3四半期は増収増益となりました。売上高は、1,424億円と6期連続で第3四半期の過去最高を更新しました。営業利益は、増収による効果などにより2期ぶりに増益となり、第3四半期の過去最高を更新しました。

セグメント別には、後ほど詳しくご説明いたしますが、すべてのセグメントが売上高で、産業・航空では営業利益も、第3四半期として過去最高を更新しています。

通期目標に関しましては、為替の円安を反映し、売上高を11月公表から100億円上方修正いたします。一方で、営業利益につきましては、増収に伴い増加するもののM&A費用の増加および研究開発費等の成長投資の増加を見込むため、11月公表を据え置きます。

この結果、今期の通期目標は売上高5,550億円、営業利益720億円との計画としております。

## 01 決算概要

	単位：億円	第3四半期(10月-12月)		前年同期比		為替影響額
		FY2024	FY2025	増減額	増減率	
業績	売上高	1,330	1,424	+93	+7%	売上高 : +18億円
	営業利益	168	187	+18	+11%	営業利益 : ▲ 2億円
	営業利益率	12.6%	13.1%	+0.5pt		
	経常利益	208	216	+9	+4%	
	親会社株主に帰属する当期純利益	148	155	+6	+4%	➡ 為替差損益 : ▲ 8億円
為替	平均為替レート：米ドル(円)	152.47	154.17	+1.70	+1%	売上高、営業利益は平均為替レートで、 為替差損益は期末レートで計上
	ユーロ(円)	162.63	179.43	+16.80	+10%	
	研究開発費	71	70	▲2		
	設備投資額	61	50	▲11		
	減価償却費	48	53	+5		

続きまして、業績サマリーとなります。

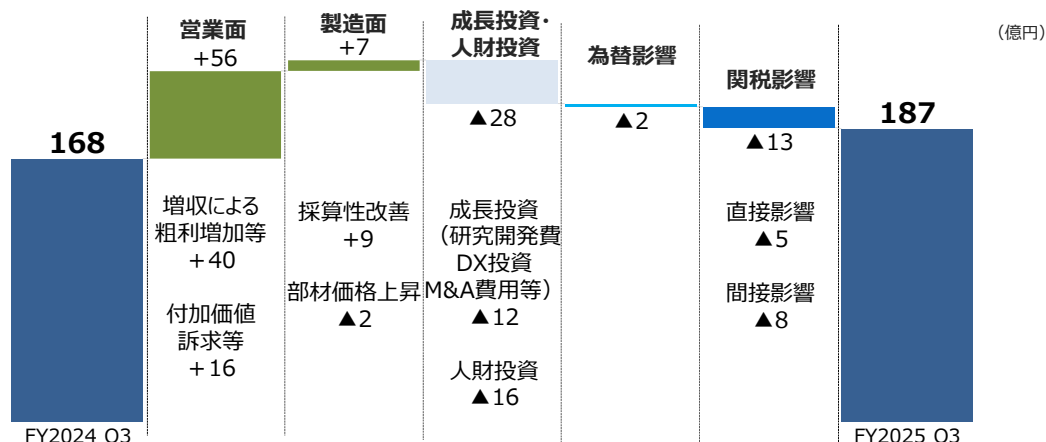
売上高、営業利益は前のページで申し上げたとおりとなります。営業利益率は13.1%と0.5ポイント向上しました。営業利益の増益要因に関しましては、次ページでご説明します。

経常利益は、営業外損益において前年と比較して為替差益が8億円減少したことなどにより、216億円、前年同期比プラス9億円・プラス4%となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は155億円で、前年同期比プラス6億円・プラス4%となりました。経常利益・当期純利益のいずれも第3四半期として過去最高です。

研究開発費は70億円で、ほぼ前年並みです。

## 連結 / 営業利益増減要因

■ 営業面	: 増収による効果と付加価値訴求で増加	+56億円
■ 製造面	: 製造での採算性が改善し、部材価格の上昇を補って増加	+ 7億円
■ 成長投資・人財投資	: DX投資・M&A費用が増加、人財投資は16億円増加	▲28億円
■ 関税影響	: 関税増▲5億円、市況悪化に伴う減益▲8億円	▲13億円



続きまして、営業利益増減要因についてご説明します。

営業面に関しては、増収による効果や付加価値訴求を進めたことにより、前年同期比56億円の利益増加となりました。製造面では、製造採算性の改善が見られ、部材価格の上昇を補い、利益影響はプラス7億円でした。

成長投資としては、研究開発費やM&A投資・DX投資などの費用が前年同期比12億円増加したことに加え、人財投資は16億円増加しております。関税影響としては、北米の子会社による関税支払いが5億円増となっていることに加えて市況悪化影響が8億円あり、合計13億円のマイナスでした。

## セグメント別損益

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- 計測：増収減益 / 売上高は9期連続で過去最高を更新 営業利益は費用増により減少
- 医用：増収増益 / 売上高は過去最高を更新 営業利益も増加
- 産業：増収増益 / 売上高・営業利益ともに5期連続で過去最高を更新
- 航空：増収増益 / 売上高は3期連続、営業利益は4期連続で過去最高を更新

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比		FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比		FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比
			増減額	増減率			増減額	増減率			増減
計測機器	873	918	+45	+5%	125	122	▲3	▲3%	14.3%	13.3%	▲1.1pt
医用機器	162	184	+22	+14%	1	12	+11	+22倍	0.3%	6.5%	+6.1pt
産業機器	174	189	+15	+9%	26	35	+9	+35%	14.9%	18.5%	+3.7pt
航空機器	100	120	+21	+21%	17	24	+7	+43%	16.8%	20.0%	+3.2pt
その他	21	13	▲9	▲40%	3	3	+0	+11%	10.6%	17.1%	+6.5pt
調整額	-	-	-	-	▲3	▲9	▲6	-	-	-	-
合計	1,330	1,424	+93	+7%	168	187	+18	+11%	12.6%	13.1%	+0.5pt

続きまして、セグメント別損益についてご説明します。

計測は増収減益。売上高は9期連続で第3四半期として過去最高を更新しました。営業利益はM&A費用増などにより減少しました。

医用は増収増益。売上高は過去最高を更新しました。また、利益は前年同期比22倍と大きく伸びました。

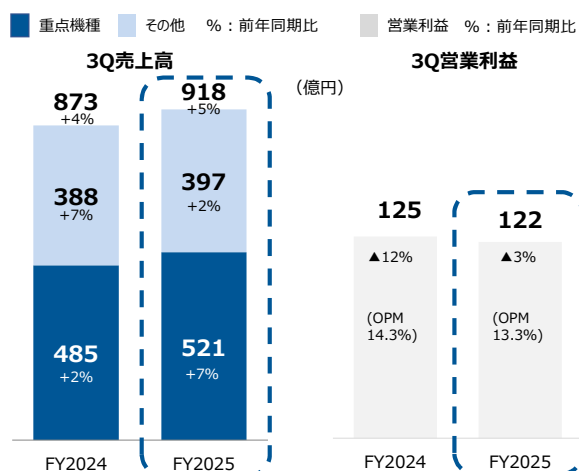
産業は増収増益。売上高・営業利益とも5期連続で過去最高を更新しています。営業利益率も大きく改善し、前年同期比3.7ポイント改善の18.5%と過去最高を更新しました。

航空は増収増益。売上高は3期連続、営業利益は4期連続で第3四半期として過去最高を更新しました。営業利益率は前年同期比3.2ポイント改善の20.0%と過去最高を更新しました。

詳細は、各セグメントのパートでご説明します。

## 【増収減益】売上高は9期連続で3Q過去最高を更新 費用増により減益

- 売上高：重点機種、その他機種ともに過去最高を更新
- 営業利益：M&A費用などの増加により減益。ただしM&A費用除けば増益



## 重点機種 売上高 521億円

- ・ 前年同期比+7%と好調に推移
- ・ 臨床や官公庁・大学市場向けにMSが好調
- ・ 日本、北米、欧州がけん引

## その他 売上高 397億円

- ・ 北米や欧州で産業分野（輸送機関連やその他の製造業など）向けに試験機が好調

## リカーリング 売上高 374億円 (前年同期比+7%)

- ・ リカーリング売上高比率 41% (対前年同期+1pt)
- ・ リカーリング売上高・比率とも3Q過去最高
- ・ 部品・サービスとも順調に増加

続きまして、セグメントごとに業績をご説明します。まずは計測機器です。

売上高は重点機種・その他機種ともに第3四半期として過去最高を更新しました。重点機種は臨床や官庁/大学市場向けに質量分析システムが好調で、前年同期比プラス7%と伸びました。その他機種では、北米や欧州で輸送機関連などの産業分野向けに、試験機が好調で、その他機種合計でプラス2%です。

リカーリング売上高も好調に増加しており、消耗品ラインナップ拡大やサービス事業への注力などが功を奏し、前年同期比7%増えました。リカーリング売上高比率は41%と、前年同期比1ポイント上昇し、過去最高を更新しました。

営業利益はM&A費用などの増加により、前年同期比マイナス3億円・マイナス3%の122億円となりました。ただし、M&A費用を除いて考えますと増益でした。営業利益率は対前年同期比1.1ポイント低下して、13.3%です。

## 計測機器 / 地域別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

単位 億円	FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比		3Q (10-12月) 概況
			増減額	増減率	
日本	307	315	+8	+3%	・ 再生エネルギー・リサイクル・半導体材料などの化学市場や、食品市場向けにLC・MS・GCが増加
海外	566	603	+37	+6%	・ 海外売上高比率は65.7% (+0.9%pt)
北米	94	104	+10	+10%	・ 臨床検査向けに北米R&Dセンターで開発したMSが増加 ・ 輸送機関連向けに試験機が増加
欧州	114	133	+20	+17%	・ 官公庁・大学市場向けに水質検査用途でMSが大きく増加 ・ エネルギー・リサイクルなどの化学市場や、輸送機市場向けにLCやGCが増加
中国	179	181	+2	+1%	・ 医薬市場での薬典改訂による需要を取り込み増加 ・ 官公庁・大学市場向けはやや停滞
その他のアジア (インド除く)	81	84	+3	+4%	・ 東南アジアで医薬や官公庁・大学向けにMSが増加 ・ 韓国で医薬市場向けにLCが増加
インド	52	49	▲3	▲5%	・ 代理店向け出荷前倒し(3Q→1H)の反動で、LC・MSが減少 ・ 医薬、食品市場の需要は引き続き底堅く推移

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第3四半期決算説明会

8

続きまして、計測の地域別売上高についてご説明いたします。なお、為替を除く成長率は補足資料の中の27ページに記載がございます。あわせてご覧ください。

日本は、前年同期比プラス3%となりました。再生エネルギー・リサイクル・半導体材料などの化学や食品市場向けに液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフが伸びました。

海外全体は、北米、欧州がけん引して、プラス6%となりました。

北米は、前年同期比プラス10%となりました。引き続き、臨床検査向けに北米R&Dセンターで開発した質量分析システムが増加しているほか、輸送機関連で試験機が増加しています。

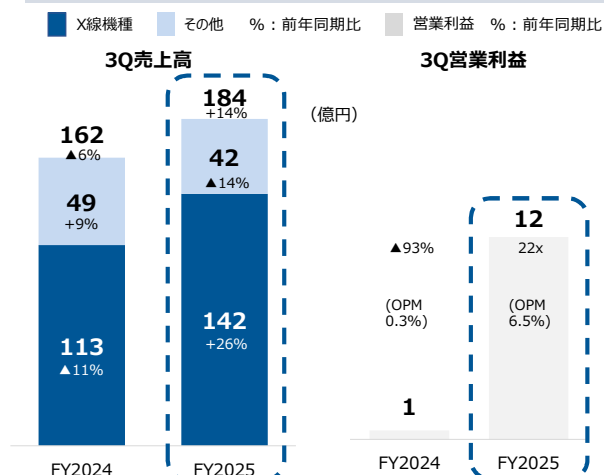
欧州は官庁・大学向けに水質検査用途の質量分析システムが大きく増加し、プラス17%でした。

中国は、回復の兆しが見えており、プラス1%です。政府の経済対策による需要はやや停滞しましたが、医薬市場における薬典改訂向けの需要を取り込んでいます。

インドを除くその他のアジアは、東南アジアで医薬や官庁・大学向けに質量分析システムが増加、また、韓国で医薬市場向けに液体クロマトグラフが増加しプラス4%となりました。

インドでは近年の2桁成長の反動から、液体クロマトグラフ、質量分析システムが減少し、マイナス5%となりました。代理店向けの出荷が上期に前倒しされていたことによる一時的な影響とみており、引き続き底堅い需要のある医薬・食品市場向けに、積極的な販売活動を進めてまいります。

- 売上高：X線機種は増加、その他機種は前年の大口案件の反動により減少
- 営業利益：新製品効果による増収やプロダクトミックス良化などにより増益



**X線機種** 売上高 142億円

- 上期の好調な受注を反映してX線機種（X線TVシステム、血管撮影システム、一般撮影システム）がいずれも増加
- 日本、北米、東南アジアがけん引

その他 売上高 42億円

- ・ 前年の大口案件の反動で放射線治療支援システムが減少

リカーリング 売上高 69億円（前年同期比+6%）

- ・ リカーリング売上高比率 37% (対前年同期▲3pt)

続きまして医用機器です。増収増益で、売上高・営業利益とも前年同期から大きく伸ばすことができました。

売上高については、新製品効果により上期の受注が好調だったことを反映して、X線機種がいずれも増加しました。一方、その他機種は前年の大口案件の反動で減少しました。

営業利益は、売上高の増加による増益に加え、利益率の良いX線機種の新製品の売上増、すなわちプロダクトミックスの良化により12億円、前年同期比22倍となりました。

リカーリング売上高も前年同期比プラス6%と、順調に増加していますが、製品の売上高も増えたため、リカーリング売上高比率は37%と、前年同期比3ポイント減少しました。

【増収増益】売上高・営業利益とも3Q過去最高を更新、TMPリカーリング売上高は前年同期比+31%と大きく伸長

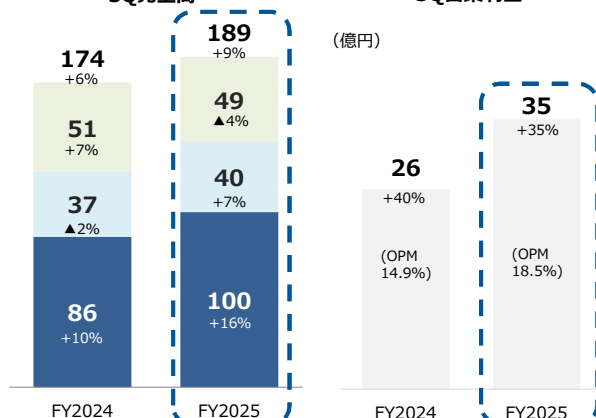
■ 売上高：半導体製造装置（以下SPE）向けTMPが回復、油圧機器が増加

■ 営業利益：増収やTMPのリカーリング事業拡大による粗利率改善により増益

■ TMP ■ 油圧 ■ その他 %：前年同期比 ■ 営業利益 %：前年同期比

3Q売上高

3Q営業利益



TMP

売上高 100億円

- ・ SPE向けが日本で減少するも、北米、中国、韓国で増加

TMPリカーリング

売上高 25億円 (前年同期比+31%)

- ・ TMPリカーリング売上高比率 25% (対前年同期+3pt)
- ・ 北米、欧州、台湾でサービスが増加

油圧

売上高 40億円

- ・ 産業車両向けは減少したものの、建設機械・特装車両向けなどが増加

その他

売上高 49億円

- ・ EV用セラミックス製造向け工業炉が減少

続きまして産業機器です。増収増益で、売上高・営業利益・営業利益率のいずれも過去最高を更新しました。

TMPは、半導体製造装置向けが、第2四半期の停滞から回復して拡大しました。また、TMPのリカーリング売上高が前年同期比プラス31%の25億円となり、リカーリング売上高比率も25%と前年同期比3ポイント向上しました。引き続きサービス拠点の拡充に積極的に取り組み、リカーリング事業を拡大します。

油圧機器も建設機械・特装車両向けに増加しましたが、EV用セラミック部品製造向け工業炉は前年同期比で減少しています。

営業利益は増収による増益に加えて、TMPのリカーリング事業の拡大により、前年同期比プラス9億円・プラス35%の35億円となりました。営業利益率も前年同期比3.7ポイント向上し18.5%となりました。

## 航空機器 / 売上高・営業利益

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

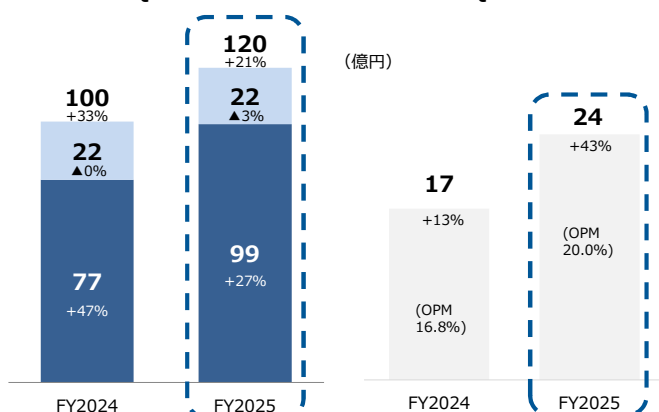
【増収増益】売上高・営業利益・営業利益率のすべてが2期連続で3Q過去最高を更新

- 売上高：防衛向けは増加、民間航空向けはサプライチェーンの一部での製造課題により減少
- 営業利益：増収やプロダクトミックス良化により増益

■ 防衛 ■ 民航 %：前年同期比 ■ 営業利益 %：前年同期比

3Q売上高

3Q営業利益



防衛

売上高 99億円

- ・ 政府の防衛力強化方針に伴う需要増と、為替の円安影響により売上高が増加

民航

売上高 22億円

- ・ 民間航空機向け搭載品や航空会社向け補用部品の需要は引き続き拡大
- ・ サプライチェーンの一部で製造課題が継続しており売上高は減少

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第3四半期決算説明会

11

航空機器についてご説明します。セグメント別の最後です。こちらのセグメントも増収増益で、売上高・営業利益・営業利益率のすべてで過去最高を更新しています。

防衛向けは、防衛力強化方針により需要が拡大したことに加え、為替の円安影響もあり増加しました。

民間向けは、旅客需要の回復に伴い需要が拡大したものの、サプライチェーンの一部で製造課題が継続しており、売上高は減少しました。

営業利益は増収による効果や、プロダクトミックス良化などで前年同期比プラス7億円・プラス43%と大幅に増加しました。営業利益率も前年同期比プラス3.2ポイントと増加し、20.0%となりました。

## 02 2025年度通期業績予想

## 2025年度通期業績予想

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- 売上高 5,550億円：想定為替レート変更により、100億円上方修正
- 営業利益 720億円：増収により押し上げられるものの、M&A費用など成長投資の増加により据え置く

売上高	5,550 億円	対前期	+ 160 億円	対11月公表	+ 100 億円
営業利益	720 億円	対前期	+ 3 億円	対11月公表	0 億円
経常利益	720 億円	対前期	0 億円	対11月公表	0 億円
当期純利益	540 億円	対前期	+ 2 億円	対11月公表	0 億円

### 通期想定為替レート

米ドル：150円  
ユーロ：174円

### 研究開発費

305 億円  
対前期 対11月公表  
+16 億円 +5 億円

### 設備投資

250 億円  
対前期 対11月公表  
+21 億円 -

### 減価償却

200 億円  
対前期 対11月公表  
+1 億円 -

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第3四半期決算説明会

13

ここからは通期の業績見込みについてご説明します。

冒頭でもご説明しましたが、11月に発表した売上高5,450億円との予想を見直し、売上高5,550億円に上方修正いたします。これは、通期の想定為替レートを、11月公表時点では1ドル145円、1ユーロ165円としていたところ、今回、1ドル150円、1ユーロ174円と円安方向に見直したことによるものです。

一方、営業利益以下は、増収により押し上げられるものの、M&A費用および研究開発費等の成長投資の増加を見込んで据え置きます。

なお、研究開発費は、4月から12月の進捗を踏まえ、11月の公表値より5億円増加の305億円を見込んでおります。

## 2025年度通期セグメント別業績予想

- 計測：売上高は為替円安により前回予想から上方修正。営業利益は増収で増加するも費用増を見込み下方修正
- 医用：売上高・営業利益とも為替円安を反映して前回予想から上方修正
- 産業：為替円安を反映するとともにTMP市況の回復を織り込み、売上高・営業利益とも前回予想から上方修正
- 航空：現時点の業績進捗に鑑み、好調な需要を背景に売上高・営業利益とも前回予想から上方修正

単位: 億円	売上高				営業利益				営業利益率			
	FY2024	FY2025 新予想	前期差 増減額	前回予想差	FY2024	FY2025 新予想	前期差 増減額	前回予想差	FY2024	FY2025 新予想	前期差 増減	前回予想差
計測機器	3,479	3,630	+151	+80	521	535	+14	▲30	15.0%	14.7%	▲0.2pt	▲1.2pt
医用機器	726	735	+9	+15	43	45	+2	+5	5.9%	6.1%	+0.2pt	+0.6pt
産業機器	723	725	+2	+25	105	105	+0	+10	14.5%	14.5%	+0.0pt	+0.9pt
航空機器	387	400	+13	+10	61	70	+9	+20	15.7%	17.5%	+1.8pt	+4.7pt
その他	76	60	▲16	▲30	6	5	▲1	▲9	6.4%	6.3%	▲0.1pt	▲5.9pt
調整額	-	-	-	-	▲18	▲40	▲22	+4	-	-	-	-
合計	5,390	5,550	+160	+100	717	720	+3	+0	13.3%	13.0%	▲0.3pt	▲0.2pt

これらを踏まえて、セグメント別の業績予想を、本スライドでお示ししているとおりの数値に見直しました。

計測機器は、為替円安を反映して売上高を80億円上方修正いたします。一方で、営業利益は、増収に伴い押し上げられるものの、M&A費用や研究開発費の増加を見込み、30億円下方修正いたします。

医用機器は、為替円安を反映して売上高を15億円、営業利益を5億円、それぞれ上方修正いたします。

産業機器は、為替円安を反映するとともに、TMPの市況回復を織り込み、売上高を25億円、営業利益を10億円、それぞれ上方修正いたします。

航空機器は、現時点の業績進捗に鑑み、好調な需要を背景に、売上高を10億円、営業利益を20億円、それぞれ上方修正いたします。

地域別通期売上高見込み  
(前期比)

為替影響を除く	FY2025	
	2Q時点	3Q時点
日本	4-6%	4-6%
北米	10-13%	7-9%
欧州	0-3%	4-6%
中国	0-3%	0-3%
その他のアジア	10-13%	7-9%
(内数) インド	10-13%	10-13%
計測全体	4-6%	4-6%

## 市場環境 (3Q)

- |            |  |
|------------|--|
| <b>日本</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 医薬・食品市場は横ばい</li> <li>□ 官公庁・大学市場、再生エネルギー・リサイクル・半導体材料分野への投資が活況な化学市場が好調</li> </ul>           |
| <b>北米</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 大手臨床検査会社と開発・改良した多検体処理LCMSシステムの水平展開が進み好調な臨床市場が全体を牽引</li> <li>□ 設備投資減少により医薬向けが停滞</li> </ul> |
| <b>欧州</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 停滞していた医薬・環境・食品安全市場が回復傾向</li> </ul>  |
| <b>中国</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 政府支援策（官庁・大学向けが中心）、薬典改訂需要に対するアプローチにより、9Mで約30MUSD受注</li> <li>□ バイオ医薬向けも伸長</li> </ul>        |
| <b>インド</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 継続して医薬・CRO市場、産業分野が好調</li> </ul>   |

ここからは、計測機器事業の地域別の通期売上高見込みをご説明します。前ページでご説明したとおり、計測セグメント全体では通期売上高3,630億円、為替影響を除いて前期比プラス4～6%と引き続き堅調な成長を見込んでおります。この目標を達成すべく、各地域で動きのある市場、顧客にフォーカスして、ソリューション提供と新製品の拡販を継続しています。

それでは、地域別の為替影響除きの成長見込みと市場環境を具体的にご説明します。まず、日本ですが、11月時点と変わらず4～6%の伸びを見込んでいます。官庁・大学市場や、再エネ・リサイクル・半導体分野への投資が活況な化学市場が好調であり、これらの市場の需要を確実に取り込んでまいります。

北米では、11月時点よりやや成長見込みが停滞し、7～9%の伸びを見込みます。臨床市場では、大手臨床検査会社と開発・改良した質量分析システムが好調を維持していますが、医薬市場での設備投資が想定より進まず、成長見込みをやや引き下げました。

欧州は、通期成長見込みを4～6%に引き上げます。計測機器を巡っては厳しい市場環境が続いていましたが、医薬・環境・食品安全市場で回復傾向が見られます。これらの市場に向けて新製品の拡販を進め、成長を実現してまいります。

中国は、回復局面にあり、11月時点と変わらず0～3%の伸びを見込んでいます。政府支援策による官庁・大学向け需要や、薬典改訂需要に対するアプローチを引き続き積極的に進めていきます。また、医薬品市場ではバイオ医薬向けも引き続き活況で、この市場に対する取り組みも進めてまいります。

インドでは、11月時点と変わらず10～13%の伸びを見込んでいます。医薬・CRO市場や電池などの産業分野の需要は引き続き強いとみており、新製品の拡販でこれらの需要の取り込みを目指します。

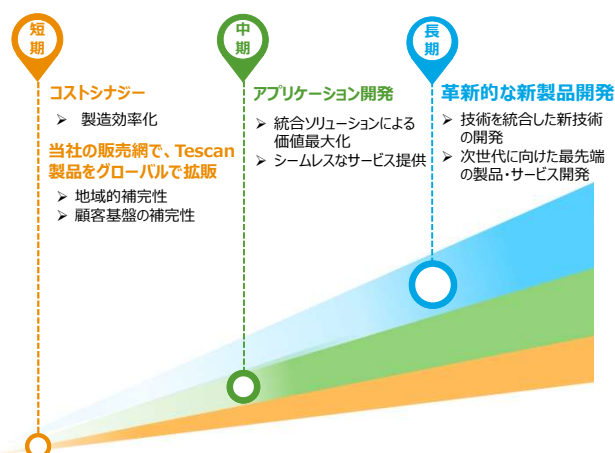
これらの地域別の市場環境をふまえ、為替影響を除いて前期比プラス4～6%との成長目標は達成可能と考えております。

## ③ トピックス

- ・Tescanの買収について
- ・新製品上市の状況

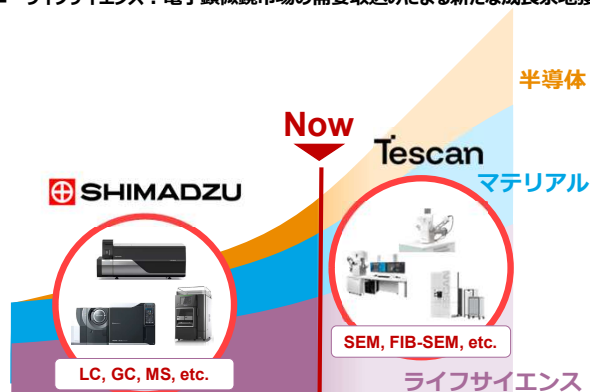
# Tescan買収によるシナジー効果と新たな成長機会の獲得

両社の高い補完性を最大限活用し、  
短期～長期にわたって様々なシナジーを発現



両社のリソースを相互に活用し  
半導体、マテリアル、ライフサイエンスの  
3分野における成長機会を獲得

- 半導体 : 本件をきっかけに本格参入し、高い市場成長を取込む
- マテリアル : 両社の顧客基盤を活用し、成長を促進
- ライフサイエンス : 電子顕微鏡市場の需要取込みによる新たな成長余地獲得



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第3四半期決算説明会

17

ここからはトピックスとして、まず、昨年12月25日に発表いたしました、Tescan社買収についてあらためて、意義と今後の目論見をご説明します。

当社は従来より、技術的なミッシングピースの獲得を目指すM&Aを検討してまいりましたが、Tescan社の有する表面観察技術は、まさにこれに該当いたします。

Tescan社と当社は、保有する機種、強みを持つ地域や顧客基盤などの点で高い補完性を有しています。この補完性を最大限活用して、様々なシナジーの発現を目指してまいります。

まず短期的には、当社工場でTescan社製品を製造する、あるいはサプライチェーンを共通化するなどの製造効率化によるコストシナジーの創出を検討します。あわせて、当社が強みを持つアジア地域の販売網でのTescan社製品の拡販、ライフサイエンス分野顧客へのTescan社製品の拡販に向けて、体制構築を進めてまいります。

また、中長期的には、両社製品の分析技術の統合による、高付加価値な製品・サービスの開発・上市を目指します。

これらのシナジー発現を目指す市場についてご説明したのが右側の図です。具体的には、半導体、マテリアル、ライフサイエンスの3つの分野に対して、両社のリソースを相互に活用しながら成長機会を捉えてまいります。

## 半導体・マテリアル・ライフサイエンスの各分野で 競争力の高い分析プラットフォームを構築



「統合解析」の実現

ハード・ソフトを融合し、  
データの一元管理・統合解析・アプリ開発

インダストリー領域（半導体分野）

成長するTescanの半導体ビジネスを活用し、市場参入推進

マテリアル領域

欧州を中心にTescanが有する大手企業の顧客基盤を活用

ヘルスケア領域（ライフサイエンス分野）

島津の顧客基盤を活用し、電子顕微鏡市場の需要を取り込む

半導体市場（事業拡大を目指す）

表面観察

Tescanの故障解析ワークフローに当社ソリューションを組み込む

Tescan

マイクロCT

FIB-SEM

レーザー加工



SHIMADZU

EPMA



水分析

AMC分析

Tescanの納入実績を活かし、半導体向け計測機器市場に参入

超純水モニタリング

環境負荷低減

揮発性有機化合物(VOC)  
モニタリング



オンラインTOC計

排水管理用オンライン用  
水質分析計

PFAS分析  
液体クロマトグラフ  
質量分析システム

ガスクロマトグラフ  
質量分析システム

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第3四半期決算説明会

18

次に、Tescan社を買収することによって特に伸ばしたいと考えている半導体分野についてご説明します。

先ほどもご説明した通り、Tescan社とは3つの分野でシナジーが発揮できると考えており、マテリアルはTescan社が主に欧州で有する強固な顧客基盤を活用しながら成長できるとみている分野、ヘルスケアは当社の顧客基盤を活用して電子顕微鏡の需要を新たに受け入れようと考えている分野です。


これらに対して、半導体分野は、Tescan社が大きく業績を伸ばしている分野、かつこれまで当社の計測機器があまり参入できていなかった分野であり、最注力市場となります。Tescan社はラボでの故障解析向けに、様々な製品を活用したワークフローの提供を計画しています。これに当社製品・ソリューションを組み込むことで、さらに競争力を強化できると考えています。

またTescan社の納入実績を活かし、表面観察だけではなく成分分析や物性分析といった当社の保有する技術や装置を半導体分野に展開し、半導体向け計測機器市場への参入を推進してまいります。

なお、Tescan社の買収に関連した今後の業績見込みや、統合プロジェクトの進捗などは、買収完了後に改めてお伝えします。今しばらくお待ちください。

## 新製品上市の状況（2Q決算発表以降にリリース）

**法律や規制に基づく水質検査を効率化・安定化  
イオンクロマトグラフ**  
2026年2月発売予定



- 小型で操作が分かりやすく、部品交換などのメンテナンスも簡単に行えるため、安定して長く使いやすい
- 新AI機能強化により、測定のやり直しが減り作業の無駄（ダウンタイム）が減少
- 専用ソフトウェアで異常値の判定や日常業務を支援し、初心者/未経験者でも扱いやすい

ターゲット：水質分析市場（環境水/水道水/飲料水/製造用水/工場排水など）

**超純水の品質をリアルタイムでチェック可能  
オンラインTOC計「TOC-1000e S」**  
2025年11月発売



- 世界最小・最軽量クラス
- 超純水中の有機物量1μg/L以下まで安定測定可能
- 半導体の洗浄基準に応え、製造工程の問題発見や歩留まり改善に役立つ

ターゲット：半導体市場

Total Organic Carbon（全有機炭素）  
水中に存在する有機物を構成する炭素の総量。  
「水の汚れ」を示す代表的な水質指標のひとつ。

### 既にリリース済みの主な製品



一体型液体クロマトグラフ  
i-Series  
LC-2070/2080  
2025年9月発売



新型ガスクロマトグラフ  
FluxEdge GC Systems  
2025年9月発売



高速液体クロマトグラフ質量分析システム  
LCMS-8065XE  
2025年8月発売



精密万能試験機  
オートグラフ  
AGS-Vシリーズ  
2025年5月発売



走査電子顕微鏡  
SUPERSCAN  
SS-4000 2025年2月発売  
SS-3000 2025年4月発売  
SS-2000 2025年6月発売



回診用X線撮影装置  
MobileDaRt Evolution  
MX9 Version  
2025年4月発売

最後に、新製品の上市進捗についてご報告いたします。本年度中に10機種以上の業績に貢献する新製品を発売する旨をご説明してきたとおり、順調に新製品発売が進んでおります。このページでは、11月の決算発表以降の新製品2点についてご説明します。

左側は、今月中に発売を予定しているイオンクロマトグラフという製品です。水質分析市場で使われる液体クロマトグラフで、競合製品に対して、小型・簡単・使いやすいという特徴を備えています。

右側は、昨年11月に発売した製品で、半導体市場をターゲットとした水質分析計である、オンラインTOC計「TOC-1000e S」です。感度が高く、半導体市場で求められる超純水の計測に対応できます。この製品は、産業セグメントのTMPによる顧客基盤やTescan社の顧客基盤を活用した半導体市場への参入に有用な製品と考えております。

これらの製品は、来期の業績貢献を期待している製品になります。来期はこれらの製品による寄与も含めまして、市場成長を上回る成長を目指してまいります。

これでご説明を終わります。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## (ご案内) 2026年度-2028年度 中期経営計画

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

### ■ アナリスト・機関投資家向け新中期経営計画の説明会を開催

**開催日時** 2026年6月4日（木）15：30 – 17：00

**開催方法** オンライン配信（Zoom）

**プレゼンター** 代表取締役社長 山本 靖則

※詳細が決まり次第、追ってご案内いたします。

進もう島津！熱意とともに  
Advancing Together with Passion  
— Best for Our Customers —

それでは質疑応答に移ります前に、皆様に1点ご案内がございます。

当社の2026年度から始まります新しい中期経営計画につきまして、アナリスト・投資家の皆様へのオンライン説明会を6月4日に開催させていただくことが決定いたしました。オンラインにはなりますが、社長の山本から内容をご説明させていただきます。

詳細等、ご案内はまた追って差し上げます。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、  
経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素に  
より、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所  
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ  
電話：075-823-1673  
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

## 補足資料

連結業績（4-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

	単位：億円	第3四半期累計(4月-12月)		前年同期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	3,843	3,987	+144	+4%
	営業利益	470	502	+32	+7%
	営業利益率	12.2%	12.6%	+0.4pt	
	経常利益	492	530	+38	+8%
	親会社株主に帰属する当期純利益	361	391	+29	+8%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	152.61	148.78	▲3.83	▲3%
	ユーロ（円）	164.87	171.88	+7.01	+4%
	研究開発費	206	213	+7	
	設備投資額	172	169	▲3	
	減価償却費	145	152	+7	

為替影響額

売上高：▲36億円

営業利益：▲10億円

## セグメント別損益（4-12月）

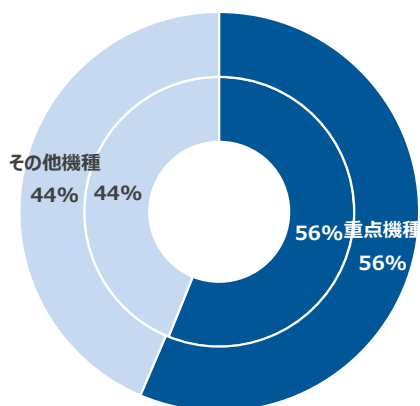
Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比
			増減額	増減率			増減額	増減率			増減
計測機器	2,479	2,599	+120	+5%	338	356	+17	+5%	13.6%	13.7%	+0.0pt
医用機器	503	521	+18	+4%	16	25	+8	+49%	3.3%	4.7%	+1.4pt
産業機器	534	518	▲16	▲3%	79	81	+2	+3%	14.8%	15.7%	+0.9pt
航空機器	280	302	+22	+8%	41	60	+19	+47%	14.5%	19.7%	+5.2pt
その他	47	47	+0	+1%	4	8	+3	+76%	6.8%	12.0%	+5.2pt
調整額	-	-	-	-	▲8	▲27	▲18	-	-	-	-
合計	3,843	3,987	+144	+4%	470	502	+32	+7%	12.2%	12.6%	+0.4pt

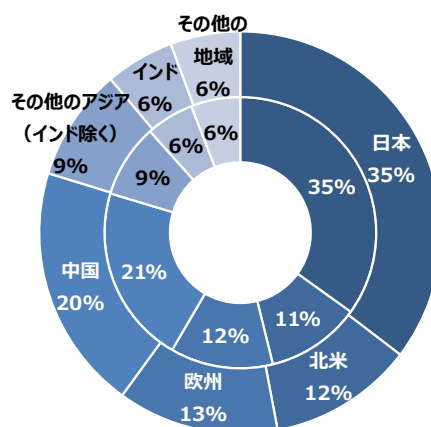
## 計測機器 / 各種売上高構成比率（4-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

機種別



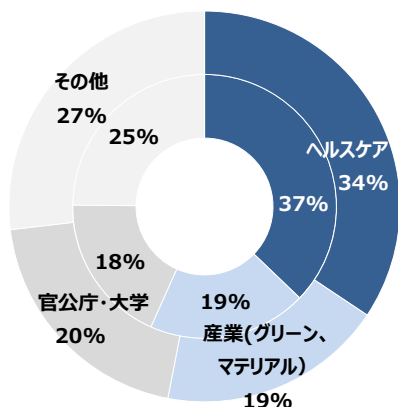
地域別



※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

## 計測機器 / 領域別売上高比率（10-12月）

市場別売上高構成比



※円グラフ：外側 FY2025実績 内側 FY2024実績

市場と主な業界	構成比		売上高 前年 同期比	概況
	FY2024	FY2025		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	37%	34%	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本では食品市場、東南アジアでは医薬市場向けが増加</li> <li>臨床市場向けは北米で増加するも、中国・欧州で減少</li> </ul>
産業関連 (グリーン、マテリアル) ●化学・素材 ●電機 ●自動車	19%	19%	+0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米で輸送機関連で試験機が増加</li> <li>日本・欧州でGX関連でLCやGCが増加</li> </ul>
官公庁・大学	18%	20%	+14%	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米は政策影響で引き続き低調</li> <li>欧州で官公庁・大学市場向けに水質規制用途のMSが増加</li> </ul>

## 計測機器 / 重点機種売上高前年同期比

- 重点機種
- LC : 医薬、臨床、GX関連（再生エネルギー・リサイクルなど）市場向けに増加
  - MS : 臨床、環境規制（欧州で水質検査用途の大口案件を獲得）市場向けに増加
  - GC : GX関連（再生エネルギー・リサイクルなど）など産業分野向けに増加

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
重点機種	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%	+3%	+5%	+7%
全体	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%	+3%	+6%	+5%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
重点機種	+12%	+8%	+7%	▲10%	+4%	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%	+9%	+6%	+5%
全体	+11%	+6%	+2%	▲4%	+3%	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%	+7%	+7%	+3%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

## 計測機器 / 地域別売上高前年同期比

- 日本：再生エネルギー・リサイクル・半導体材料などの化学市場や、食品市場向けに重点機種が増加
- 海外：北米・欧州で重点機種に加え試験機が増加。インドは在庫調整などで一時的に停滞

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%
北米	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%	+13%	+4%	+10%
欧州	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%	+2%	+13%	+17%
中国	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%	▲1%	+1%
その他のアジア	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%	+13%	+5%	+0%
インド	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%	+16%	▲1%	▲5%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%
北米	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%	+22%	+5%	+9%
欧州	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%	+4%	+9%	+8%
中国	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%	▲1%	+1%	+0%
その他のアジア	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%	+21%	+7%	+0%
インド	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%	+25%	+0%	▲6%

## 計測機器 / 領域別売上高前年同期比

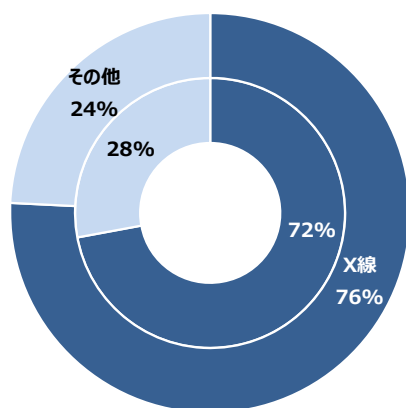
	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
ヘルスケア	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%	+2%	+7%	▲3%
産業 (グリーン、マテリアル)	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%	▲6%	+1%	+0%
アカデミア/官庁	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%	+9%	▲1%	+14%

※為替影響を含む

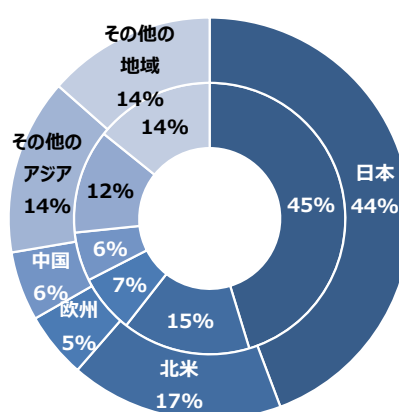
## 医用機器 / 各種売上高構成比率（4-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

## 医用機器 / 地域別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

単位 億円	FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比		概況
			増減額	増減率	
日本	72	79	+6	+9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新製品効果でX線機種が大きく増加</li> <li>・ 前年の大口案件の反動減で放射線治療支援システムが減少</li> </ul>
海外	90	106	+16	+18%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外売上高比率は、57.4%と前年同期比2.0pt増加</li> </ul>
北米	23	32	+9	+39%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般撮影システムが新製品効果で伸長</li> </ul>
欧州	17	12	▲5	▲30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東欧での官公庁予算執行の遅延により減少</li> </ul>
中国	9	11	+2	+28%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模設備更新プロジェクトによる入札数増加で、X線TVシステムが増加</li> </ul>
その他の アジア	20	28	+8	+40%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低被ばくかつ高画質な画像が評価されX線TVシステムや一般撮影システムが増加</li> </ul>

## 医用機器 / 地域別売上高前年同期比

- 国内：前年の放射線治療支援システムの大口案件の反動減を、新製品効果により好調なX線機種が補う
- 海外：欧州が市況停滞で大幅減も、日本・北米・中国・東南アジアで増加

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%	▲4%	+9%
北米	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%	▲6%	+40%	+14%	▲2%	+14%	+39%
欧州	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%	+3%	▲44%	▲14%	▲63%	+51%	▲30%
中国	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%	▲36%	▲22%	▲31%	▲3%	▲20%	+28%
その他のアジア	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%	+1%	+16%	+19%	▲20%	+28%	+40%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%	▲4%	+9%
北米	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%	+21%	▲12%	▲8%	+35%	+8%	+5%	+16%	+37%
欧州	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%	▲1%	▲32%	▲1%	▲42%	▲17%	▲62%	+47%	▲35%
中国	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%	▲43%	▲32%	▲37%	▲24%	▲34%	+5%	▲18%	+27%
その他のアジア	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%	+5%	+41%	▲0%	+13%	+14%	▲14%	+32%	+40%

## 産業機器 / 機種別売上高前年同期比

- **TMP** : 半導体製造装置向けが増加
- **油圧** : 産業車両向けが減少も、建設機械・特装車向けなどが増加
- **その他機種** : EV用セラミックス部品製造向け工業炉が減少

為替影響 を含む	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
TMP	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%	+10%	+12%	+14%	+3%	▲2%	+16%
油圧	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%	▲2%	▲1%	▲3%	▲3%	+6%	+7%
その他	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%	+7%	▲16%	+12%	▲19%	▲39%	▲4%

為替影響 を除く	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
TMP	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%	+17%	+5%	+9%	+11%	+10%	+8%	▲3%	+14%
油圧	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%	▲7%	▲5%	▲3%	▲1%	▲4%	▲1%	+6%	+6%
その他	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%	+22%	+40%	+5%	▲16%	+10%	▲16%	▲38%	▲4%

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。  
FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

## リカーリング比率

- 計測 : 北米・欧州で部品・サービスとも増加
- 医用 : 日本で部品・サービスとも増加
- TMP : 顧客カバー率向上により台湾を中心に大きく増加

計測	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカーリング売上高 前期比	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%	+10%	+6%	+5%
リカーリング比率	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%	40%	35%	38%	42%	38%	41%

医用	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカーリング売上高 前期比	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%	+6%	+5%	+5%
リカーリング比率	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%	40%	34%	37%	47%	35%	37%

TMP	FY2023					FY2024					FY2025		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカーリング売上高 前期比	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%	+24%	+23%	+29%
リカーリング比率	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%	22%	19%	20%	21%	25%	25%

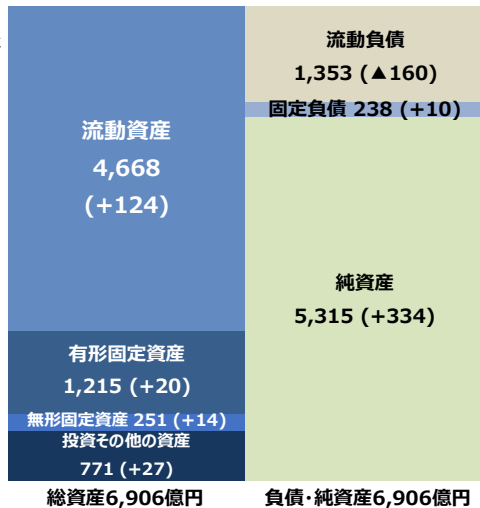
※ 為替影響を除く

## 連結財政状態

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- 2025年12月末総資産 6,906億円（2025年3月末から+184億円）
- 棚卸資産（製品、仕掛品）の増加に加え現預金や投資有価証券も増加し、流動資産が増加

(億円)  
増減は2025年  
3月末対比



### 資産

流動資産 **+124億円**

- 商品及び製品 +72億円
- 仕掛品 +68億円

### 負債・純資産

流動負債 **▲160億円**

- 支払債務 ▲78億円
- 賞与引当金 ▲69億円

純資産 **+334億円**

- 利益剰余金 +195億円